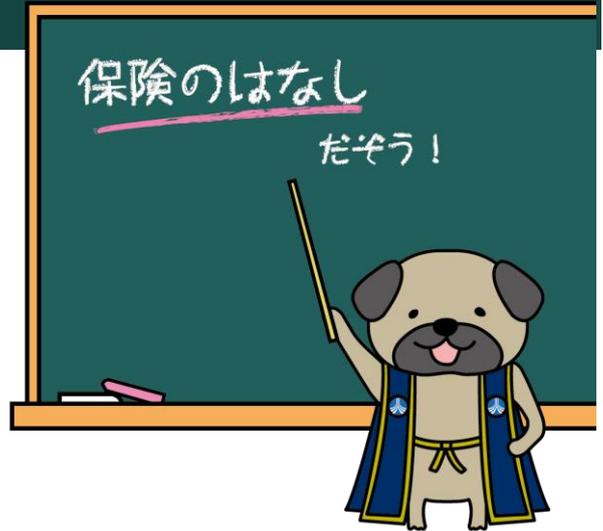




生命保険の「市場価格調整」って何？

昨今、資産運用を目的として、契約時に保険料を一括で支払う一時払生命保険が人気を集めています。特に、日本円建てに比べて高い利回りが期待できる米ドルや豪ドルなどの外貨建保険が選ばれることが多いようです。こうした保険商品の仕組みに「市場価格調整」がありますが、耳慣れない言葉なので、これって何だろうと疑問をお持ちの方も多いのではないのでしょうか。今回のミニトークでは「市場価格調整」について簡単に解説します。



生命保険の運用方法

生命保険商品の多くは、国債等の債券を中心に運用されています。保険会社は債券を保有することで決まった金利（固定金利）を受取ることができます。お客さまからお預かりした保険料を、契約時に定めた利率で運用し満期時にお戻しするために、保険会社は契約期間に応じた債券を保有します。

市場価格調整の仕組み

保険商品はお客さまが満期まで保有することを前提としていますが、仮にお客さまが中途解約を希望した場合、保険会社は保有する債券を市場で売却して資金を確保する必要があります。債券は固定金利商品であることからその時の市場金利により、債券の市場価格が変動します。契約時より市場金利が上がると債券の市場価格は下落し、反対に市場金利が下がると債券の市場価格は上昇します。保険料は債券で運用されているため、解約返戻金へも債券の市場価格を反映させる必要があります。市場価格調整とは、保険を中途解約した場合に債券の価格変動を解約返戻金に反映させる仕組みです。

イメージしやすくするために裏面の図1を見てみましょう。①仮に年利1%で償還までの期間が1年の債券を100万円購入したとすると償還時には101万円となります。②ところが市場金利が上昇し、市場で年利3%で償還までの期間が1年の債券が販売された場合、償還時には103万円となりますので、既に保有している年利1%債券の魅力は薄れます。手元資金が必要となり①今保有している年利1%債券を他の人に売却しようとする、年利3%債券と張り合うために価格を下げる必要があります。このように市場金利が上がると債券の市場価格は下落することになります。

この例では償還までの期間を1年としていますが、保険会社は保険期間に合わせ10年や20年と長期の債券を購入して運用しており、償還までの期間が長いほど市場価格調整の影響は大きくなります。また、外貨建保険に限らず円建保険についても市場価格調整の仕組みを持つ商品があるため留意が必要です。なお、市場価格調整は中途解約した場合の仕組みのため、保険を満期まで保有した場合は金利変動の影響はありません。保険に加入する際は中途解約とならないよう、お客さまの資金の目的に応じた期間を選択し金利変動リスクを回避することが重要です。

図 1



※この図はイメージをつかむための簡略図であり、厳密には③は②の利回りと異なります。